

3 令和2年度予算の概要及び事業の経営方針

本市の下水道事業は、人口減少により、今後、下水道使用料収入が減少することが予想されるなど厳しい状況になっています。このような経営環境ではありますが、公営企業として事業を継続するにあたりコスト縮減を意識した事業手法の見直しや「長浜市下水道ビジョン」、「長浜市下水道事業経営戦略」そして「琵琶湖流域下水道東北部経営計画」に示された市町負担の影響を踏まえ、令和2年度に策定した「長浜市下水道事業中期経営計画」に基づき、老朽化が進む農業集落排水処理施設を含めた下水道事業全体の課題を整理し、流域下水道への接続等汚水処理の効率化と経営の一元化を目指します。

また、市民の安心・安全な生活を確保するため、雨水渠整備を推進し、浸水被害の防止に取り組むとともに、清潔で快適な生活環境の確保と下水道施設の有効利用を図るため、水洗化の普及促進を行い、水洗化率の向上に努めます。

さらには、長浜市下水道事業計画に基づき、汚水管渠の整備を進めるとともに、マンホールポンプ長寿命化計画に基づき、ポンプ施設の改築を実施する他、公共工事の発注や政策方針を見直し、必要な機能、品質を確保しつつ事業費の縮減を図ります。

施設維持管理業務については、定期的な点検や管路調査等に基づいて計画的に改修等を行う「予防保全」により、施設の長寿命化を図ります。

令和2年度下水道事業会計予算は、業務の予定量として年間総処理水量13,177千 m^3 を見込み、これらに必要な維持管理経費及び使用料収入等を計上しております。

まず、収益的収支ですが、下水道事業収益4,172,372千円、下水道事業費用3,813,222千円からそれぞれ消費税及び地方消費税分を控除した結果、当年度純利益は311,431千円となる見込みです。

次に、資本的収支ですが、主な事業としては、農業集落排水処理事業の公共下水道事業への接続事業や赤川排水区の雨水管渠整備事業などの建設改良費を計上しています。収入においては、これら支出に対応する財源として、国庫補助金、企業債等を計上しています。

その結果、資本的収入2,671,590千円、資本的支出4,387,717千円となり、差引1,716,127千円の財源不足となる見込みですが、これは、損益勘定留保資金等で補てんしています。